

令和8年度第1回鹿児島市交通事業経営審議会

日時	令和8年6月5日（金） 14:00～15:30	会場	交通局3階 第2会議室
出席者	古川会長、小山委員（副会長）、松枝委員、江口委員、竹之下委員、上仮屋委員、東川委員、奈良迫委員、津江委員（9名）		
市出席者	交通局長、交通局次長（総合企画課長）、総務課長、経営課長、電車事業課長、バス事業課長		
会次第	1 開会 2 委員及び事務局紹介 3 交通局長の挨拶 4 議事 （1）令和8年度鹿児島市交通事業特別会計予算の概要について （2）鹿児島市交通事業経営計画の実施状況（令和7年度実績）について （3）令和7年度市電・市バス乗車実績等について （4）令和7年度の主なトピックスについて 5 閉会		

会次第4-(1) 令和8年度鹿児島市交通事業特別会計予算の概要について

発言者等	協議事項・質疑・回答等
委員	○経営計画の財政見通しと当初予算との乖離は。
事務局	●計画と比較し、軌道の黒字が約6,000万円減少。バスの赤字が約5億7,000万円増加し、両事業合計で約6億3,000万円悪化した。また、収益については、両事業合計で約8,000万円の減となった。一方で、資金残については、交通事業債の借入により、計画とほぼ同額であり、計画と乖離していない。
委員	○バスの収支悪化について、営業費用増の他の要因は。
事務局	●今年度は補助金を使用せず、交通事業債を活用したため、赤字額が増加したが、基本的には経営計画と同様の内容で予算を組めたものと考えている。
委員	○県外移住就職者支援事業の予算額100万円の内訳は。
事務局	●1人につき、10万円補助することとしており、予算では10人を見込んでいる。
委員	○「1000形ブレーキ装置空制化事業」、「VVVF制御装置更新事業」、「運転士異常時列車停止装置設置事業」は、全ての電車を対象としているのか。
事務局	●これらの事業については、大切な安全投資であり、設置すべき車両については、今後数年間で全て設置する予定で取り組んでいる。
委員	○電車接近表示器の更新を断念したとの報道を見たが、撤去の費用等は今年度予算に計上していないのか。
事務局	●対応については、一部報道で即完全撤去とあったが、決まっていないところであり、今後、検討してまいりたい。
委員	○アプリを利用できない方もいる中、現在のシステムは非常に便利で完全撤去は残念との声を聞いているが、撤去にも費用がかかるため、再設置を含めて検討してもらえれば有難い。
委員	○シティビュー利用者は外国人が非常に多く、今後も増加すると考える。そのような中で、バスの区別がつかないというクレームも多く聞いており、海外の利用者にも分かりやすい案内・表示を心がけてもらいたい。

発言者等	協議事項・質疑・回答等
事務局	●シティビュー専用の車両については、英語で名称を掲載しているが、多客時・クルーズ船来航時に専用車に替えて運行している路線バス車両の方向幕は、カタカナのみの表示となっている。車体への英語での表示を含め検討したい。

会次第 4-(2) 鹿児島市交通事業経営計画の実施状況(令和 7 年度実績)について

発言者等	協議事項・質疑・回答等
委員	●電車の有責事故件数の目標値 4 件に対し、実績が大幅に上回っているが、件数が増えたことに対しては、どのように考えているのか。
事務局	○大変申し訳なく思っており、ヒューマンエラーについては、ヒヤリハットを収集し、乗務員に周知することで防止に努め、施設設備については、安全に対する投資として 7 年度から順次整備に取り組んでいる。
委員	○人間である以上、ミスが発生するため、設備投資は大切であるとする。 ○ワークライフバランスについて、R7 年度では、両事業合計で 24 名採用しており、時間外勤務数は減ると考えられるが、更に減らすため、今後も人員を増やしていく方針か。
事務局	●人員は両事業ともに不足しており、募集を継続している。 ●時間外勤務数は、職員ごとにばらつきがあり計画的に仕事をしていくことが必要であると考えているが、7 年度においては、週休増に取り組み、ワークライフバランスは良い方向に向かっているものと考えている。
委員	○電停ネーミングライツは、全ての電停に命名権が設定されることで価値が生まれ、収入増にも繋がると考える。広告代理人に委託する等して、全電停への設定に向けて努力してもらいたい。
事務局	●今年度においては、残りの全電停において募集をかけるところであるが、広告代理人の活用は検討していなかった。今後、検討してまいりたい。
委員	○職員の安全衛生に関して、運転士の乗務時間等は、要治療等の者に対する配慮があるのか。
事務局	●運転不可と診断されているわけではないため、通常の勤務形態で乗務させている。病気の悪化等で運転不可と診断された場合には、乗務を辞めさせることとなる。
委員	○貸切バスの運行については、昨年度比で利用件数が増加しているが、現在の状況・今後の見通しについて、どのように考えているのか。また、他都市におけるレンタカー事故の報道の影響は。
事務局	●7 年 7 月のダイヤ改正までは、乗務員不足もあり、利用を制限していたが、改正後はクルーズ船来航の影響もあり、件数が増加した。今年度においてもクルーズ船関連の受注を見込んでおり、増加するものと考えている。なお、現時点で、他都市の事故をきっかけとした影響は出ていないが、改めて学校等に利用を呼びかけてまいりたい。

会次第 4-(3) 令和 7 年度市電・市バス乗車実績等について

発言者等	協議事項・質疑・回答等
委員	○シティビューの利用が前年度比で 15% 減少しているが、元々満員であったことから、利用が低迷しているというより、適正な乗客数に落ち着いたとの印象を受ける。
事務局	●具体的な分析は行っていないが、運転士に確認したところ、大きく減少した印象はないとのことであった。同路線については、今後を注視してまいりたい。

発言者等	協議事項・質疑・回答等
委員	○イベントについては、小さい子供だけでなく、中学生や高校生を対象としたものがあれば、より親しみを持ってもらえるのではないかと。また、西郷隆盛生誕200年に関連した施策の実施に伴い、乗りまわレールきっぷの需要増が期待できることから、販売期間の延長を検討してはどうか。
事務局	●運転士体験においては、大人用の制服も用意して実施おり、数人の参加があった。 ●乗りまわレールきっぷの販売期間の延長については、現時点で未定であり、今後 JR 九州と協議してまいりたい。
委員	○運転士確保のため、高校生や専門学生、大学生向けのインターンは実施していないのか。
事務局	●R7 年度においては、主に中学校・高校からの申込により職場体験を実施したほか、人事課主催のインターンシップで大学生の参加が1件あった。
委員	○局が所有するバスについて、EV バスに関する他都市の報道を見たが、影響は。
事務局	●本局の EV バスについては、故障していた時期もあったが、現在は安定的に運行できているところであり、メンテナンスについても、局の工場で点検体制を敷いているため、運行に支障はでていない。

<その他>

発言者等	協議事項・質疑・回答等
委員	○電車接近表示器について、スマホで手軽に接近情報の確認はできるものの、県外等の利用者にとっては不便であると感じる。他都市の状況も踏まえ、今後の対応について検討してもらいたい。
委員	○電停掲示板に QR コードが2種類あり、分かりやすい説明も記載されていないため、利用者目線で不便を感じる。コードの読取後も、運行情報を直接確認することができず、諦めてしまう利用者もいるのではないかと。掲示している QR コードに説明を加えてもらいたい。 接近表示器については、継続希望者が多いので更新をお願いしたい。
委員	○市電の運転マナーについて、運転が丁寧な職員もいれば、荒っぽい者も見られる。手足の力が弱くなり、つり革・握り棒につかまっていられない高齢者等も乗車していることから、乗務員同士で運転を確認しあう機会を設け、マナー向上を図っても良いのではないかと。
委員	○市バスの運転マナーについて、城山展望台等、特殊な交通状況に対する運転士の配慮や、停留場に進入する際の状況確認の徹底について周知をお願いしたい。 ○路線移譲によりチャレンジパスの対象地域から外れた子供たちもいる中、民間とも連携した、楽しく外出できるような取組を検討してもらえると有難い。
事務局	●ヒヤリハットについて、以前は市電・市バス運転士のみから収集していたが、現在は、利用者・一般ドライバーからも収集するようにしており、今回の情報も踏まえ、乗務員への周知徹底に努めてまいりたい。

発言者等	協議事項・質疑・回答等
委員	○燃料・石油製品の確保は問題なくできているのか。
事務局	●軽油については、4、5月分と随意契約であったが、6月分については指名競争入札を行うことができた。石油製品の不足については、現時点で問題はない。
委員	○県外移住就職者支援事業について、なぜ県外に限定しているのか。
事務局	●県内のバス運転士が不足している状況にある中、より広い地域から運転士を確保するため、対象を県外としているところである。
委員	○市内の交通渋滞緩和のためにも、まずは公共交通の利用促進が必要であると考える。交通事業者から呼びかけ、収入の増にも繋げてもらいたい。
事務局	●交通政策課や交通事業者を交えた会議の場でも、意見を取り入れ議論してまいりたい。
委員	○技術職については、若い世代の方への技術の継承が図られることで、技術のブランド化が進むことも期待できる。運行を支える技師の若手採用はどのような状況か。
事務局	●R7年度は軌道整備士として2名、また、8年4月に電車整備士として1名採用している。
委員	○敬老パスの負担増は、既に決定した事項であるのか。
事務局	●敬老パスの負担額見直しは、市の担当部局において、既に決定しており、来年2月からこれまでの1/3負担から2/3負担に変更になる予定である。